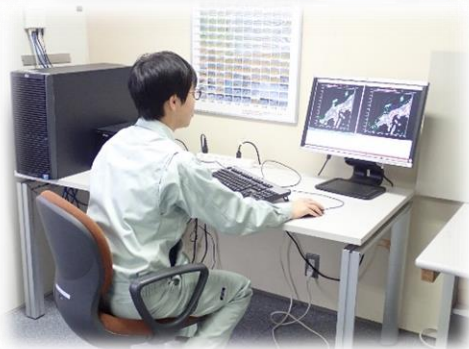


富山県気候変動適応センター

# Newsletter

ニュースレター

創刊号



## 「富山県気候変動適応センター」を設置しました

近年、気温の上昇、豪雨の増加、農作物の品質低下など、気候変動と思われる影響が全国で顕在化しており、今後さらに深刻化するおそれがあります。

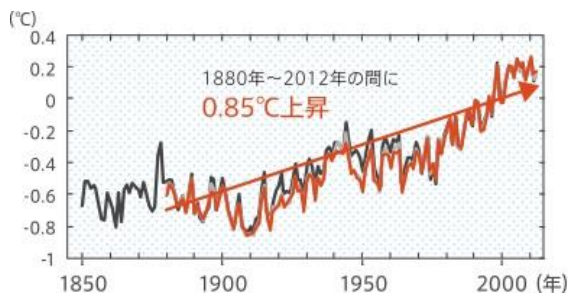
富山県環境科学センターでは、これまで地球温暖化の影響に関する調査研究や気候変化の将来予測、ウェブサイトを通じた広報活動等に取り組んできたところです。

こうした中、平成30年12月に施行された気候変動適応法に基づき、県内での気候変動の影響及び適応に関する情報収集、分析、情報提供及び技術的助言を行う拠点として、令和2年4月1日に環境科学センター内に「富山県気候変動適応センター」を設置しました。

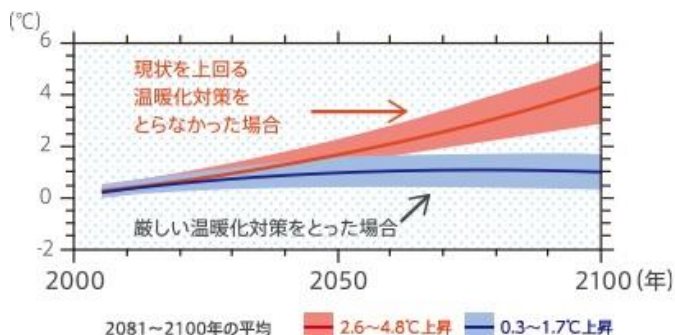
## 世界の気候変動のこれまでとこれから

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書によると、世界平均地上気温は、産業革命が始まった頃の1880年から2012年の間に0.85℃上昇しました。（左図）

今後、有効な温暖化対策をとらなかった場合、21世紀末の世界の平均気温は、20世紀末頃と比べて2.6～4.8℃上昇（右図 赤色の帯）し、厳しい温暖化対策をとった場合でも0.3～1.7℃上昇（青色の帯）すると予測されています。



世界平均地上気温（陸域+海上）の偏差



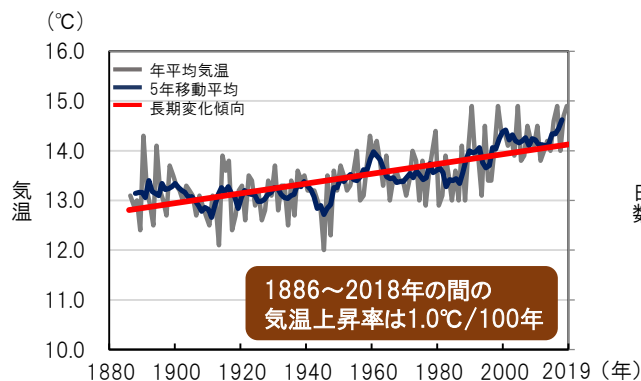
1986年～2005年の平均気温からの気温上昇

出典：環境省ウェブサイト

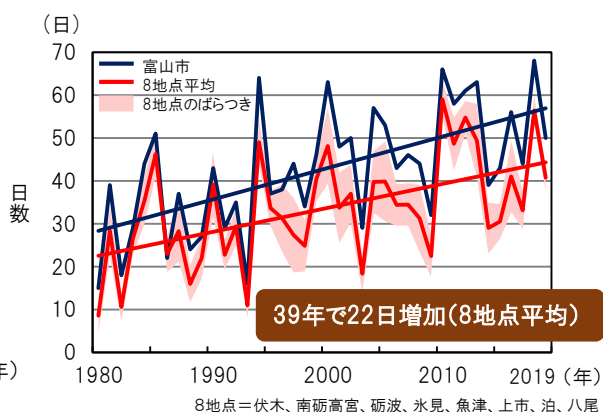
## 富山県でも気温上昇が続いています

富山県でも平均気温の経年変化に上昇傾向がみられます。

また、最高気温が30℃を超える真夏日の日数も増加傾向にあり、将来の真夏日日数の増加が見込まれることから、熱中症などの健康被害のリスクが高まるおそれがあります。



年平均気温の経年変化（高岡市伏木）



富山県内の真夏日日数の経年変化

出典：気象庁の観測データをもとに当センターで作成

## 「緩和」と「適応」

気温上昇による農作物への影響や、過去の観測を上回るような短時間強雨、熱中症搬送者数の増加といった健康への影響など気候変動によると思われる影響は、私たちの暮らしの様々なところにすでに現れています。

これまでの温室効果ガスの排出量を減らす努力などの緩和策に加えて、これからは、すでに起こりつつある気候変動の影響への回避・軽減を図る適応策を実施していくことが重要です。



人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が必要です。

緩和を実施しても気候変動の影響が避けられない場合、その影響に対処し、被害を回避・軽減していくことが適応です。



出典：国立環境研究所 気候変動適応情報プラットフォーム

## 気候変動の影響と適応策

国の気候変動適応計画によると、気候変動によって農林水産業、水環境・水資源、自然生態系など7つの分野で様々な影響が予測されています。こうした気候変動の影響に対する県の適応策の取組み例は、次のとおりです。

分野	予測される影響	県の適応策の取組み例
農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物の品質低下</li> <li>病害虫の発生増加や分布域の拡大</li> <li>漁獲量の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高温でも品質低下のない水稲「富富富」の高品質安定生産</li> <li>適切な畜舎環境管理など生産技術の開発</li> <li>水質・底質調査による漁場環境の監視と、藻場造成技術の普及促進</li> </ul>
水環境・水資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質の悪化</li> <li>水資源の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川、湖沼、海域における水質モニタリング</li> <li>地下水の保全と適正利用・涵養の取組の推進</li> </ul>
自然生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>野生生物の生息域の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な立山の植生・ライチョウ生息数のモニタリング</li> <li>イノシシ、ニホンジカ等の個体数の適正な管理</li> </ul>
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害、土砂災害の頻発化・激甚化</li> <li>海面上昇や強い台風の増加による浸水被害の拡大、海岸浸食の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の水位や土砂災害警戒情報等の迅速な提供</li> <li>地域防災計画等を踏まえた県民参加による実践的な訓練の実施など地域防災力の強化</li> </ul>
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症搬送者数の増加</li> <li>感染症を媒介する節足動物の分布域の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症や感染症等に関する情報発信など広報媒体を活用した注意喚起の実施</li> <li>感染症に係る危機管理体制・医療提供体制の確保</li> </ul>
産業・経済活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保険損害の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候リスク管理や適応ビジネスに関する先進事例等の紹介</li> </ul>
県民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間強雨・大雪や渇水頻度の増加等によるインフラ・ライフラインへの影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動影響と適応に関する普及啓発</li> <li>冬期の道路状況等に関する情報の発信</li> </ul>



## 富山県気候変動適応センターの主な業務内容

富山県気候変動適応センターでは、地域における気候変動影響や適応に関する情報を収集、分析し、県民の皆様に提供していきます。

### 1 県内の気候変動の影響及び適応に関する情報収集及び他の研究機関等との連携

- ・ 国立環境研究所と連携し、国や全国の様況、科学的知見の収集を行います。
- ・ 研究機関や学識者による研究会を設置し、影響・適応に関する情報交換を行います。

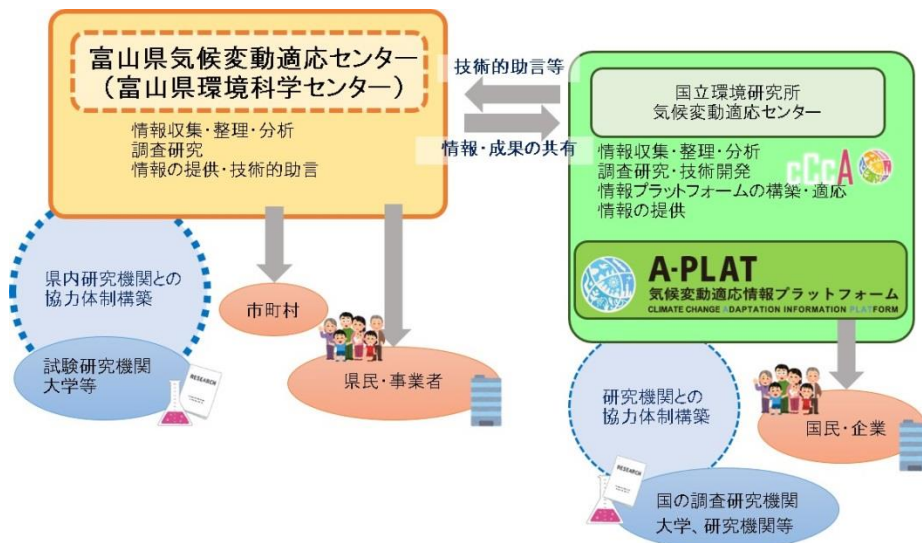
### 2 地域における気候変動影響及び適応に関する研究

- ・ 気候変動による降雪の将来変化（極端気象による豪雪の発生）について予測するとともに、消雪設備で利用する地下水の合理的な利用に関する研究を行います。
- ・ 立山の融雪状況をモニタリングし、高山帯での気候変動の影響について評価します。
- ・ 温暖化に伴う河川や富山湾の水質・水温の変動に関する研究を行います。

### 3 県民や事業者等への気候変動影響及び適応に関する情報提供及び相談対応

- ・ ニュースレターやウェブサイトを活用し、広報・啓発活動を行います。
- ・ 地球温暖化、気候変動に関する環境教育を推進するため、令和2年秋に環境科学センター内に、環境について見て・触れて・学ぶことができる拠点施設を整備します。

## 富山県気候変動適応センターの活動のイメージ



Newsletter ニュースレター 創刊号

発行 富山県気候変動適応センター(富山県環境科学センター内)  
Toyama Prefectural Climate Change Adaptation Center(TCCAC)

〒939-0363 富山県射水市中太閤山17-1  
TEL:0766-56-2835 / FAX:0766-56-1416  
URL:[http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1730/kj00021662.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1730/kj00021662.html)